

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第319回

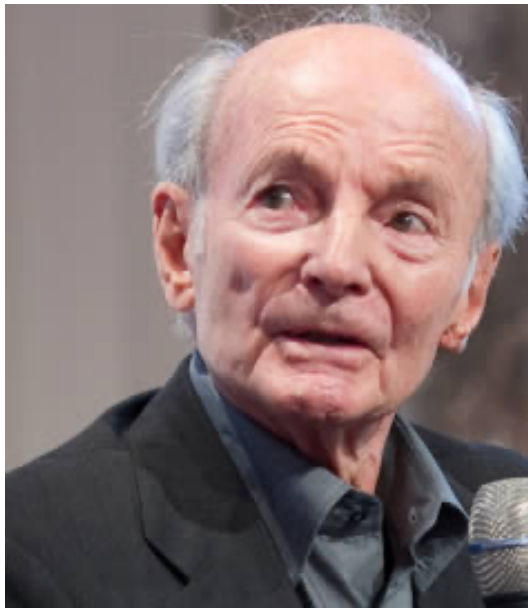
デットマール・クラマー

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年8月17日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

タイムアップの笛は、 次の試合への キックオフの笛である。

デットマール・クラマーは、ドイツのドルトムント出身のサッカー選手、サッカー指導者。デットマール・クラマーと表記されることもあった。クラマーは日本サッカー界初の外国人コーチであり、サッカー日本代表の基礎を作り日本サッカーリーグの創設にも尽力したことから「日本サッカーの父」と称された。

Column

バスケットボールを題材にした人気漫画の『SLAM DUNK』の安西先生の有名な言葉である『諦めたらそこで試合終了ですよ』を彷彿とさせるような言葉です。クラマー氏はサッカーですが、スポーツのシーンの中でよくかけられる声に“切り替えよう！”という言葉があります。ミスが出た時、相手が勢いづいてきてチームを落ち着かせたい時などに使います。しかし、この言葉が出る時は間違いなく焦っている時であり、この言葉が聞こえたとしても、なかなかその通りにできないのが正直なところです。

今回の言葉を知った時、サッカー指導者の言葉でありながら“サッカーに限った話ではない”と感じました。以前このコラムでも述べたことがありますが、今みなさんは高校生として様々なチャレンジをされていて、その中には卒業後もチャレンジを続けられるものと、高校生という期間限定でしかチャレンジできないものがあると思います。ベストは全てのチャレンジを成功させることですが、チャレンジのレベルが高くなればなるほどそれは難しくなります。簡単に達成できることは目標にはしないことから、チャレンジを成功させるたびにレベルが高まっていくことも容易に想像ができ、最終的にはかなり成功率の低いことにチャレンジする展開になる中で、何度も同じことにチャレンジすることになるでしょう。ここで話を戻すと、そうなった時に心が折れかけますから“切り替える”ということが非常に重要になるわけです。例えば高校まで部活を頑張ってきて、目標達成までには至らなかったとします。しかし、卒業後に大学や就職先で新たな目標に向かうことになった時、『今度こそは！』と高いモチベーションを湧き出させることができれば私は素晴らしいと思っています。目標が達成できなかったとしても、未達成のまま他のチャレンジに移ることになると、チャレンジする意欲さえあれば人生は何度でも光り輝くのではないのでしょうか。自分で笛を鳴らして歩き出しましょう！